

(様式2)

学校関係者評価報告書

愛媛県立みなら特別支援学校
学校番号(51)

評価実施日		令和5年2月27日(月)	
委員	氏名	所属等	備考
	伊藤 剛志	社会福祉法人 馴鹿(となかい) トナカイ福祉交流館あい 施設長	
	池川 良徳	東温市見奈良区長	
	前園 俊恵	法蓮寺住職	
	永井 裕二	社会福祉法人 松山手をつなぐ育成会 生活介護事業所 つくし園	
	大丸 和利	分校PTA会長	
	米倉 瞳	本校PTA副会長	
	河田 晶	分校PTA副会長	

評価・提言等	提言等に対する改善方策等
<p>○学校現場における働き方改革について 働き方改革について、一般企業では勤務時間等の短縮が求められるなど、少しずつ推進されている。学校現場における教職員の現状はどうか。(本校・分校)</p> <p>○松山城北分校の作業学習について 実施方法について、詳細に知りたい。(分校)</p> <p>○松山城北特別支援学校(仮称)の開設について 松山城北分校が本校になるという捉え方でよいか。(分校)</p> <p>○松山城北分校の通学方法について 生徒は、どのような方法で通学しているか。(分校)</p> <p>○みなら本校の寄宿舎について 寄宿舎に入舎している生徒は何人か。(本校)</p> <p>○本校のキャリア教育について 本校は、小中高の各学部があるが、どのような方向性でキャリア教育を行っているか。高等部は、学校生活の「出口」になるが、そこをゴールにすると、負担を感じる生徒がいるかもしれない。キャリア教育において、障がい者が「働く」ということにフォーカスする必要はないと思うので検討してほしい。(本校)</p> <p>○部活動について 特別支援学校においても、部活動はあるのか。あるとすれば、地域に移行していくのか。(本校・分校)</p>	<p>・「働き方改革」は、県教育委員会としても三本柱の一つに入るくらい重視している事項である。会議の精選やオンライン化、在宅による研修の実施等を行い、勤務時間の削減に努めており、今後も継続していきたい。</p> <p>・普通科と産業科で別々に実施しており、普通科は、木工・園芸・縫製・生活デザイン・環境デザインの5班、産業科は、クリーン・農業・工芸の3班にそれぞれ分かれて活動している。</p> <p>・(普通科から産業科に変わる生徒はいるかという質問を受けて)科は、3年間変わることはない。</p> <p>・先日の新聞発表の通り、松山聾学校と松山城北分校の敷地内に新しい校舎を建て、小学部・中学部を新設し、令和8年度い松山城北特別支援学校(仮称)を開設する予定である。</p> <p>・生徒は、自力で通学することが原則になっており、徒歩・自転車・公共交通機関のいずれかで登下校している。ただし、保護者やデイスの職員の送迎により、登下校している生徒もいる。</p> <p>・分校用の通学バスはない。みなら本校の通学バスは、北条方面もルートになっているため、バスを利用したい生徒は本校に入学している。</p> <p>・現在、24名の生徒が在籍している。以前よりも、寄宿舎に入舎する生徒は減ってきている。</p> <p>・それぞれの学部で月間目標を定められている。例えば、礼儀やあいさつ、家事・手伝い等が目標になっているが、それらの励行を通じて、働くために必要なスキルや心構えを系統的に学んでいくカリキュラムになっている。また、先輩方の体験談を聞く機会もあり、仕事を身近に感じられるような取組も行っている。キャリア教育の取組を通して、様々な進路選択ができるよう今後も実践していきたい。</p> <p>・特別支援学校では、教職員の負担にならない程度で部活動を行っている。土日の練習も行っていない。そのため、今のところ地域に移行する予定はないが、必要があれば検討していきたい。</p>